



講座

「子どもの本を知る講座」

時間 13:30～15:00

会場 沼津市立図書館4階 第1・第2講座室

第1回 8月23日(日) 「絵本+ワークショップ」～絵本から繋がる想像力～

講師: 藤井 さやか 氏 (子育て応援サークルいちご代表)

第2回 9月6日(日) 「子どもと読書」～読書はほんとに大切なこと?～

講師: 亀田 圭子 氏 (静岡県子ども読書アドバイザー)

第3回 9月13日(日) 「子どもの本とその時代」～古典児童文学から育つもの～

講師: 村上 慶子 氏 (ぬまづ子どもの本を学ぶ会代表)

ギャラリートーク

「近世沼津宿本陣清水家」ギャラリートーク



図書館4階で展示されていた清水家文書

清水家が所蔵していた貴重な古文書等の資料に新たな収蔵品を加え、学芸員による展示の見どころを紹介するギャラリートークを開催します。

講師 木口 亮 学芸員 (明治史料館)

鈴木 裕篤 学芸員 (歴史民俗資料館)

日時については決まり次第お知らせします。

詳しくは図書館ホームページまたはチラシをご覧ください

どこからでも、どこにでも。

近くの地区センターで
借りたい本を借りられるといいな。

そんな声に応える

TSUNAGARU Project
(つながるプロジェクト)

本館、戸田図書館、自動車文庫、16ヶ所の地区センター図書室の図書資料を
“どこからでも”借ることができ、“どこにでも”返すことができる

借りたい本は予約をして近くの図書館(室)で受け取ることができます。

予約できる図書資料が 5冊になって、もっと便利に!

ご自宅のパソコンやスマートフォンから簡単に予約できます。

こんなお悩みありませんか?



借りたい本が
いつも行く
地区センターに
置いてない



最寄りの
地区センター

予約して借りたい本を
取り寄せればいいんだ!

予約も5冊できる
ようになったし♪



※地区センターでの受取は図書資料のみとなります。

もっと便利に!
それが
つながる
project!!



地名の由来(その16) -旧大岡村地区<3>-

上石田(かみいしだ)・中石田(なかいしだ)・下石田(しめいしだ)

この地域は、黄瀬川の流れが運んだ砂礫の多い土地であったと考えられ、開墾していく際、石の多い土地であったことから「石田」と名付けられたといわれている。水田耕作地帯であり、北から上、中、下に分かれている。

下石田の旧東海道往還沿いには、今でも「従是西沼津領」と刻まれた長さ一丈(約3m)の八寸角(約24cm)の石柱(左写真)が建っている。これは安永6年(1777)沼津水野藩が成立し、翌年、駿河国駿東郡沼津の城地が葦山代官江川太郎左衛門から水野氏に引き渡された際、沼津藩領域を示すための榜示杭(境界のしるしに立てられた標柱)で、かつての駿東郡木瀬川村・下石田村の境界に建てられ、これより西が沼津領であることを示している。

下石田の青木家には、下石田村名主であった青木伴右衛門とその子の二代にわたり、沼津藩主下の世情、幕末の黒船到来の騒然とした状況、天変地変、疫病流行など、その当時を物語る貴重な古文書史料が残され、天保8年(1837)から慶應3年(1867)のうち、安政5年(1858)までを収録したものが、『下石田村名主青木伴右衛門記録』



『沼津市史 通史編 近世』 図：元禄15年(1702)の沼津

-参考文献-

- ◆『沼津市史 通史編 近世』
沼津市市史編さん委員会・
沼津市教育委員会(2006)
- ◆『沼津・三島・清水町 町名の由来』
辻真澄(1992)
- ◆『伴右衛門沼津むかし話』
青木 栄実(1983)

(『図書館郷土資料叢書』7)として解説出版されている。また『伴右衛門沼津むかし話』は、沼津宿で安政5年(1858)7月からコレラの伝染が始まり、下石田村でもサイノカミや庚申堂、観妙庵、耕雲寺につめかけて題目を唱え、また野狐のたたりであるとして稻荷に宮籠りする人もいたと伝えている。

おすすめ資料の紹介

コロナの時代といわれる今、先人たちは未知の伝染病とどう向き合ってきたのか、紹介します。

『マスク』 菊池 寛/著 2階一般(918.68)

『菊池寛全集第2巻』(高松市菊池寛記念館、1993)
『菊池寛文学全集第3巻』(文芸春秋新社、1960)に収録

スペイン風邪流行期に予防に勤しむ自身をモデルに執筆したとされる短編。当時2300万人が罹患し38万人が亡くなったことは、病の恐ろしさを実感させた。マスクをすることは臆病ではなく、文明人の勇気だと語られている。感染症予防に有効な手段が手洗い・うがい・マスクであることは100年前から変わっていないようです。主人公の脈を診る医者が放った、「オヤ脈がありませんね。こんな苦はないんだが」という台詞はホラーな雰囲気漂っています。



図書館員が描いたマスクをする菊池寛

『幕末狂乱 コレラがやって来た!』

高橋 敏/著 朝日新聞社(2005)
2階郷土(K210)

黒船の来航、安政の大地震に大津波と続く天変地異。そこに安政5年(1858)、「三日コロリ」ともいわれる伝染病コレラの恐怖が襲いかかる。東海道沿いを東へ東へと進んだコレラの猛威が、ついに沼津にもやって来た。前年の大凶作から始まった苦難の連続と、異常な致死率の高さと伝染力を持つコレラに翻弄される下香貫村の人びと。それでもなにかしなくちゃならない。コレラを退散させるべく、村を挙げて、靈験あらたかな京都吉田神社への勧請を決意する。

村を救うため、死の病に立ち向かっていく下香貫村の人たちの様子が、史実資料とともに克明に描かれています。

現在の吉田神社は下香貫の楊原神社の境内に遷座されていますが、当時は眺望のよい猪沼の掃除ヶ峰が宮地として選ばれ祀られていました。



吉田神社の神額